

重症児の有病率について

阿部幸泰

岡田（札幌あゆみの園園長）は、愛知県下における重症児の実態調査等から、「大島の分類」の1～4に該当する重症児の有病率を0.0298%と推定されている。

最近の国勢調査から、全国に35,000人の重症児の存在を推定している。さらに現在、重症児施設（国立、公法人立）収容数は16,600人、その内「大島の分類」の1～4に該当する重症児は、約9,100人、故に在宅は、26,000人と推定される。

宮城県の人口は、2,176,295人（平成元年6月発行資料）であり、重症児は約551人となる。

国療西多賀病院、国療宮城病院、エコ-療育園に入院中の宮城県の重症児は、それぞれ67人、120人、50人である。

合計237人の内、統計率（65.3%、「中村博志他：全国国立療養所重症心身障害児実態調査報告《1988年度》、昭和63年度心身障害（者）の医療療育に関する総合的研究・報告書、145～166、1990」から）で推測すると、国療に入院中の重症児で「大島の分類」の1～4に該当する重症児は約154人となり、約390人は在宅と推定される。

注：「有病率」とは、人口に占める重症心身障害児（者）の割合

平成7年度県の調査（身体障害者手帳1，または2級）と療育手帳（A、またはB）を合わせ持つ在宅者数 約370人